

ハッシュタグ

#なかなかいいなかいせはら 発信中

—いせはらシティプロモーション指針を策定しました—

市では、市内外の人たちから「住み続けたい」「住んでみたい」「訪れたい」と思われる“選ばれるまち”となることを目指して、平成27年度から31(令和元)年度を期間とする「いせはらシティプロモーション推進計画」を策定しました。計画を基に、5年間にわたって市民や関係機関、行政が一体となってさまざまな取り組みを進めてきました。各種の取り組みが実を結んだことにより、本市を訪れる観光客数は年々増加し、人口はほぼ横ばいで推移しています。

令和2年3月、これからもシティプロモーション活動を進めていくための方針となる「いせはらシティプロモーション指針」を策定しました。

☎広報戦略課 94-4864

#(ハッシュタグ)…主にツイッターやインスタグラムなどのSNSで使われる「タグ」(ふせん・ラベル)のこと。単語や文章の前に#(ハッシュマーク)を付けることで、タグ=キーワードとして使用することができ、共通の話題を集めたり投げかけたりするときなどに便利な機能です



シティプロモーション推進計画 主な取り組みの実績

これまでの取り組みによる成果の一部を紹介します。

プロモーションの顔、クルリンの活躍

ゆるキャラグランプリ®やご当地キャラ博in彦根などの全国的なキャラクターイベントで伊勢原市をPRしてきたクルリン。平成25年のデビュー以降、出演回数は市内外合わせて約1400回に上ります。イラストの種類は250を超え、行政の刊行物以外にもスポーツ団体のユニフォーム、農産物や土産物のパッケージに使われるなど多方面で活躍中です。



ご当地キャラ博in彦根2019でクルリンキターを持ってアピール



クルリンあてに全国から400枚近い年賀状や暑中見舞いが届きます

グローバルな魅力を、大山から

神奈川県第4の国際観光地を目指す「新たな観光の核づくり」事業に認定されている大山。平成27年のミシュラン・グリーンガイド・ジャポン(改訂第4版)掲載、28年の「大山詣り」の日本遺産認定を機に、海外からも観光客が訪れるようになりました。併せて日向地区、比々多地区などの歴史・文化・自然あふれるスポットも注目されています。



「江戸庶民の信仰と行楽の地〜巨大な木太刀を担いで「大山詣り」〜」が日本遺産に認定



うまいものセレクトの常設販売所を柏木牧場の中に開設

新東名にロマンスカー…より便利なまちに

平成31年3月に新東名・伊勢原ジャンクションが、今年3月には待望の伊勢原大山インターチェンジが開通。都心からの移動時間が短縮され、交通の利便性が向上しました。また、インターチェンジの名称に「大山」と付いたことで、伊勢原市が大山への玄関口であることが改めて知られました。

平成28年3月から伊勢原駅が小田急線特急ロマンスカーの常時停車駅となったことや、東京メトロ千代田線を経由して取手駅(茨城県)や我孫子駅(千葉県)から直通の列車が乗り入れるようになったことなどから、鉄道利用者にも広く関心を持たれるようになりました。



平成31年3月に開通した新東名伊勢原ジャンクション



JR常磐線で伊勢原駅まで乗り換え無しで移動できます

また本市の“美味しいもの”“巧みなもの”を全国へPRする地域ブランド「日本遺産のまち 伊勢原うまいものセレクト」の創設や、新たな土産の開発を目的に市内の生産者や商店経営者などが「伊勢原うまいもの遺産創造委員会」を立ち上げ、新銘菓「大山阿夫利246生乳茶菓」を考案するなど、伊勢原の魅力を広く発信しています。

その他の取り組み

シティプロモーションブックの作成・配布、いせはらフィルムコミッションによるロケ誘致活動、日向・比々多地区の歴史散策ルートへの案内板や方向柱の設置、海外に向けた情報発信としてインバウンドイベントなどを行いました。また、市商工会青年部主催により大山こまでギネス世界記録®(同時にこまを回した人数967人)を達成しました。

市民のおススメ度は約70%

シティプロモーションに大切なのは、その地域を「推奨(お薦め)したい」という想いです。市では今年2月~3月に、市民を対象に伊勢原市の推奨度についてwebアンケートを行いました。「伊勢原の良いところを多くの人に知ってほしいと思うか」という質問に、71.9%の人が「思う」と回答。市内外へ伊勢原の良さを広めていくには、この割合をもっと高める必要があります。

新たな羅針盤 いせはらシティプロモーション指針の概要

多くの人から“選ばれるまち”を目指し、これからも引き続きシティプロモーション活動を進めていくための基本方針をまとめました。ここでは、その主な内容について紹介します。

指針は、市役所4階の担当1階の市政情報コーナーのほか、市ホームページ「いせはらシティプロモーション」→「計画・指針」から見ることができます。※「伊勢原」と「いせはら」…指針に掲載している表記に合わせ、自治体としての記載は漢字、地域としての記載はひらがなを使用しています

目的

持続的な発展に向けて

シティプロモーション活動の原動力となるのは、いせはらの魅力や強みを知り、市内外へと推してくれる「いせはらファン」の皆さんです。ファンの皆さんと一緒に取り組むプロモーションを目指します。

地域参画総量を増やす

前述のファンの皆さんを含め、地域に住む人たちが関わる人たちの、まちを良くしたい、何か問題があれば一緒に解決していこう、といった「地域に対する思い」の総量のことです。具体的には次の3つがあります。

- ◇推奨意欲…自分が住む伊勢原市をお薦めしたい、住んでいないけど共感し、お薦めしたいという思い
 - ◇参画意欲…市をよりよくしようとする活動に参加したいという思い
 - ◇感謝意欲…市をよりよくしようとする活動に感謝する思い
- これらの思いを増やし、また、さらなる「いせはらファン」を生み出すことを目的にプロモーション活動に取り組みます。

取組方針

①戦略的プロモーション

取り組みを効果的に進めるため、定期的な現状分析を行い、対象とする世代や居住地域など、その都度適切なターゲットを設定して、段階的かつ集中的な情報発信を行っていきます。

②魅力発信プロモーション

「いせはら」の持つ魅力やツール、資源を最大限に活用し、都市イメージや認知度を高めていきます。

いせはらの都市イメージ

- ◇“安全・安心”を実感できるまち
- ◇“安らぎ”や“癒やし”に満ちたまち
- ◇便利で伸びしろのあるまち
- ◇歴史と観光を同時に楽しめるまち
- ◇本格登山ができる都心から一番近いまち



ロゴマーク&キャッチフレーズ

人と人、人と自然、歴史と現代などが「いい仲」として共存している、都会がうらやむ「いい田舎」。そんな「いせはら」の良さが、伊と神奈川県の形をモチーフにデザインされています。

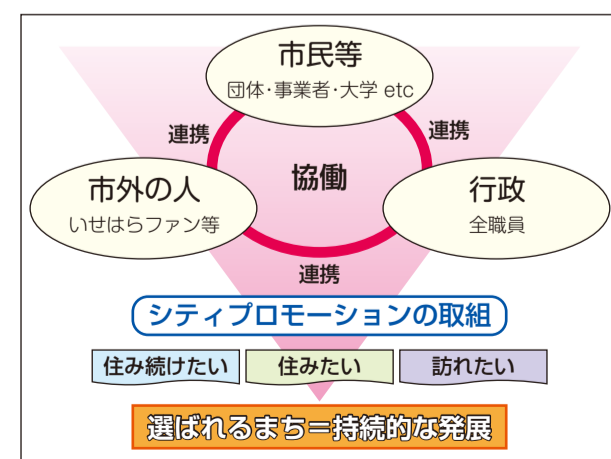


③連携プロモーション

市では、市民や関係団体などが行う活動に対し、報道機関への情報提供や市ホームページ、SNSによる情報発信などの支援を行います。

推進体制

市民や地域団体、NPO、大学、企業、行政、さらに市外の人たちと連携し、シティプロモーションを推進する仕組み作りと気運の醸成を図り、プロモーション活動を展開していきます。



みんなの力がエネルギー！ 公認サポーターの活動を紹介

「いせはら」に愛着を持ち、その魅力を積極的に発信してくれる団体や個人を、いせはらシティプロモーション公認サポーターとして認定しています。令和2年4月末現在で31団体21個人が登録し、それぞれの個性や特技を生かして活動中です。そんなサポーターさんにお話を伺いました。

- 質問事項
- ①サポーターとしてどのような活動をしていますか
 - ②市内外の人に知ってほしい「いせはら」の魅力とは
 - ③今後、どのような活動をしていきたいですか

FC伊勢原フォルトイシモ

- ①社会人サッカーチームとして各種リーグ戦に参加しているほか、地域の交流の場として、大人から子どもまで一緒に楽しめるスポーツイベントなどを開催しています。
- ②世代を問わず、地元愛の強い人が多いこと。
- ③生涯スポーツとしてサッカーを楽しめるインフラ作り。サッカーを通じて活気あふれるまちづくりのお手伝いをしたいです。



目黒久仁彦さん

- ①写真撮影を中心に、ドローンなどを使った動画の撮影と編集を行っています。
- ②伊勢原には、まだまだ知られていない魅力的な場所をはじめ、歴史や伝統があります。そういった場所を写真や動画を通して知ってもらいたいです。
- ③これまで自然を中心に撮影してきたので、歴史や文化を紹介できるようなものを作成していきたいです。また市内のいろいろな場所を撮影して紹介できればと思っています。

◇家で楽しむ動画を作成

写真や動画撮影が得意な目黒さんは、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛が続く中、家にいながら楽しむことができる動画「大山の桜」を作成。市公式YouTubeチャンネルで公開しています。満開の桜を上空から捉えたドローンによる映像は、迫力の中に繊細さが漂います。ぜひご覧ください。



あなたもサポーターになりませんか？

認定・登録された団体(人)には、名刺や腕章などを提供しています。希望する人は、市役所4階の担当または市ホームページ「いせはらシティプロモーション」で申請書を入手し、提出してください。

若者の視点から「いせはら」を発信

～オリジナルラップでつづるストーリー～

産業能率大学の学生による新たなプロモーション動画ができました。都会で働く若者が、故郷の伊勢原を振り返る様子がオリジナルのラップ音楽に乗せて描かれています。市公式YouTubeチャンネルをご覧ください。また、向上高等学校放送部が作成した動画「大山絵とろうろうまつり」も公開しています。



産業能率大学の学生による動画の一場面。どこか切なく温かい雰囲気に満ちた内容です



向上高等学校放送部による動画の一場面。カラフルな光で彩られた映像が楽しめます

市公式YouTubeチャンネルを見る方法

市ホームページのトップページ「公式SNS」の「YouTube」アイコンをクリックしてご覧ください。アイコンをクリックすると市公式チャンネルへ移動します

